



## 持続的な農林業の振興

### ● 現状と課題 ●

当町の農業は、大規模な優良農地を中心に認定農業者や集落営農組織等による効率的な営農が進められ、その営農規模も年々拡大しています。しかし、こうした担い手農家についても高齢化が進んでいることから、新規認定農業者を確保しつつも後継者不足が懸念されており、先端技術を活用し、自動化、省力化を図るスマート農業への期待が高まっています。また、町内産農産物においては海外産品との競争が激化している状況であり、持続可能な農業生産を確保する取り組みとして、GAP<sup>17</sup>認証の取得を検討し、農業経営の改善や効率化を図ることが求められます。将来にわたって持続的に農業経営が続けられるよう地域営農体制を維持、強化しながら、消費者に選ばれる品質の良い農産物を提供していくことが必要です。

町内における農業では、食の安全安心や食育などの面から、地産地消の重要性が高まっています。今後、子どもが食に関心を持ち、食を通じて健全な心身が育まれるよう、地域の食への理解を深める教育や交流の機会を持つことが重要です。

当町では、町名の由来ともなっている「マコモ」を中心に様々な特産物の振興を図ってきました。また、観光地である利点を活かし、宿泊施設における地場農産物の活用を行うなど、農商工連携による「食の観光」を展開し、町内外の方々に町農業の魅力を発信しています。

農家が減少する中、農道や農業用排水路といった土地改良施設の維持管理が課題となっていますが、多面的機能支払制度による農村環境整備を進めるとともに、これらの制度を活用し、施設の長寿命化を図り地域組織の強化が求められます。

鳥獣害対策事業に関しては、年々被害が増加し、地域ぐるみでの追い払いや大規模な侵入防止柵の設置を行い、捕獲による個体数調整を実施しています。また、CSF<sup>18</sup>（豚熱）の感染が全国的に拡大しているため、家畜伝染病の適切な感染防止についても対策が求められます。農地の耕作放棄地対策と併せて、引き続き有効な方策について各関係機関で検討していく必要があります。

林業を取り巻く環境は、全国的に依然として厳しい状況ですが、森林の持つ公益的機能や生物多様性の側面が重要視され、国による様々な施策が実施されています。森林所有者、林業施業者、地域住民などと連携を図りながら森林資源の有効活用を検討し、森林の公益的な機能を維持するため、適切な林道整備等を行うとともに間伐材等を活用した取り組みを進める必要があります。



### ● 目指す方向 ●

- ① 安定した営農体制の確保に努めます
- ② 産地化の促進を図ります
- ③ 地産地消の促進を図ります
- ④ 農地、農村環境の保全に努めます
- ⑤ 有害鳥獣対策の促進を図ります
- ⑥ 森林資源の管理、活用に努めます

### ● 関連する個別計画 ●

- ・菰野町人・農地プラン（①）
- ・菰野町農村環境改善センター長寿命化計画（①～⑤）
- ・菰野町健康増進計画・食育推進計画（③）
- ・菰野町教育振興基本計画（③）
- ・菰野町障がい者福祉計画（③）
- ・菰野町鳥獣被害防止計画（⑤）
- ・菰野町森林整備計画（⑥）

### ● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元農産物を積極的に購入し、情報発信を行う</li> <li>・「菰野ブランド」への意識を高める</li> <li>・農村環境を維持、向上させる取り組みに参加する</li> <li>・侵入防止柵の設置等、鳥獣被害を防止する取り組みに参加する</li> <li>・森林との触れ合いを通じて、森林の持つ特性を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域営農の中核となる担い手や地域営農の育成、確保を図る</li> <li>・農産物の高品質化・産地化を図り「菰野ブランド」の推進に努める</li> <li>・地産地消の生産、販売システムの構築や情報発信に努める</li> <li>・町民による侵入防止柵の設置や捕獲活動等に対し、国、県、町の支援制度による支援を行う</li> <li>・農用地の環境を保全する活動組織への支援を行う</li> </ul>